令和 3 年度　霞ヶ浦学講座第 12 講「霞ヶ浦ゾーンのジオサイトの魅力」実施報告案

実施日時：令和 3 年 11 月 28 日（日）13:30－15:30

場所：霞ケ浦環境科学センター多目的ホール

講師：久田健一郎　氏（元筑波大学生命環境系教授）　　参加者数：39 名

テーマ：「霞ヶ浦ゾーンのジオサイトの魅力」

講演概要

【筑波山地域ジオパーク】

ジオパークの「ジオ」は「地球・大地」という意味があり、ジオパークは「大地の公園」ともいわれています。筑波山地域ジオパークは平成 28 年 9 月に認定され、令和 3 年 2 月には再認定されました。筑波山・霞ヶ浦・関東平野を含んでいます。つくば市、石岡市、笠間市、桜川市、土浦市、かすみがうら市の 6 市からなる筑波山地域ジオパーク推進協議会がジオパーク活動を進めています。

筑波山地域ジオパークでは、テーマを「関東平野に抱かれた山と湖～自然と人をつなぐ石・土・水」とし、大きく「筑波・鶏足山塊ゾーン」、「霞ヶ浦ゾーン」、「山と湖をつなぐ平野ゾーン」の 3 つのゾーンに分けています。そして見どころを 7 つのジオストーリーと 26 のジオサイトを使って説明しています。

霞ヶ浦ゾーンでは、約 13 万年～12 万年前の「古東京湾」、約 3 万年前の「古鬼怒川」の痕跡を見ることができます。ジオストーリーでは、霞ヶ浦湖岸域付近は「古東京湾や古鬼怒川がつくり出した霞ヶ浦」、「石・土・水が育んだ筑波山地域の産業」としてその魅力を説明しています。「土浦」、「上高津」、「田村・沖宿」、「崎浜・川尻」、「歩崎」、「高浜・石岡」、「花室川」の 7 つのジオサイトがあります。（なお、花室川ジオサイトは、「山と海をつなぐゾーン」に入りますが、上高津ジオサイトと深い関係があるので「霞ヶ浦ゾーン」に含めました。）

【ジオパークの基本理念】

ジオパークの基本理念は、三層からなるピラミッド構造に見立てています。下層として「地形・地質」があり、その上に、「生物・生態系」があり、上層に「歴史、文化・産業」があります。この「地形・地質」、「生物・生態系」と「歴史・文化・産業」をより有機的に関連づけることはジオパークを知り、説明するうえでも重要になってきます。

【各ジオサイトの魅力】

歩崎ジオサイト、崎浜・川尻ジオサイト

崎浜・川尻ジオサイトでは、約 12 万年前につくられた地層を見ることができます。歩崎ジオサイトでは霞ヶ浦周辺が約 12 万年前以降の浅い海から川・湖へ変化していった過程を見ることができます。また、水平な地層の積み重なりや貝・カキなどの化石の産出状況を容易に観察することができます。野外観察を行いやすく、地層の学習の適地といえます。

上高津ジオサイト（上高津貝塚）

約 4,000 年～3,000 年前の縄文時代後・晩期の遺跡です。貝塚、竪穴住居跡が見られ、古代人が住んでいた様子を伺い知ることができます。

花室川ジオサイト

ナウマンゾウの臼歯などが約 3 万～2.5 万年前の地層から発見されています。ニホンアシカの上腕骨も発見されており、太平洋海岸線から人為的に運ばれた可能性があります。古代人が住んでいたのではと推測することができます。

土浦ジオサイト

桜川は 2.4 万年前頃までは古鬼怒川の流れでした。古鬼怒川によって運搬された礫が、現在の桜川の河床の地下数ｍに広がっているとされています。またこの礫層は、土浦市街地の地盤を比較的頑固なものにしているといわれています。

土浦は江戸時代には、醤油の産地と知られ、原料の大豆、小麦などの運搬には桜川・霞ヶ浦が重要な役割を担っていました。

高浜・石岡ジオサイト

石岡は、奈良時代には国府がおかれ、都と国府を結ぶ古代道が設置されるなど重要な地であったと推測できます。古代の東海道が土浦ジオサイトと高浜・石岡ジオサイトの間を結んでいました。

田村・沖宿ジオサイト

約 6,000 年前の縄文海進による湖岸の浸食によって生じた細粒砕屑物（泥や砂）が浸食崖の麓に堆積し、湖岸平野をつくりました。この湖棚が蓮田の良好な条件を提供したことになります。また湖岸に広がる蓮田は和食の「文化的景観」に匹敵するものです。

このように霞ヶ浦ゾーンのジオサイトは、魅力的なものが多く、古代から現在までの、自然と人の密接なかかわりを私たちに示しています。これらのかかわりを正しく理解し、保全につなげていく必要があります。

（文責　小川）

【所感】

ジオパークをテーマにした講座は人気があり、参加申込者数 47 名、参加者数 39 名と今年度実施した霞ヶ浦学講座の中では一番多かったです。休憩時間、講演終了後に講師の先生に質問する方も多く、ジオパークへの関心の高さをうかがえました。